

平成28年2月2日

村上市長 高橋 邦芳 様

朝日地区地域審議会
会長 忠 隆司

第2次村上市総合計画策定に向けての提言書

当地域審議会では、地域における「日常生活の課題と解決するための方向性」について審議いたしました。

その結果、下記については特に重要な事項であるとして、第2次村上市総合計画を策定するにあたり、ここに提言いたします。

記

1. 子どもが安心して遊び、親子が集える場所の整備について

子どもたちが安心して遊べる広い施設が少ないため、子ども同士、親同士の集う場所が不足しています。学童保育等の充実による安心して子どもを預ける場所の確保とともに、親同士のコミュニケーションの場の確保という観点からも安心して遊べる公園等の整備を推進する必要があります。

なお、公園等の整備に当たっては、管理コスト低減の点や、観光振興の点からも点在型にするのではなく、「道の駅朝日」の拡張再開発の際に、地域住民のみならず、観光客にとっても魅力ある施設整備とする必要があります。

2. 買い物弱者の支援について

食料品等の日常の買い物は、集落内の店舗数の減少や、運転が困難な高齢者の増加により年々困難な状況となっています。日用品を販売する移動販売車支援制度等の導入とともに、地域住民が集える場の確保の点からも地域コミュニティの協力による集落内店舗の存続を図る必要があります。

3. 高齢者等の交通手段の確保について

広大な当地区に対応する公共交通の整備が不十分な状況です。公共交通機関の利用が困難な高齢者等についてはミニハンディキャブ友の会がボランティアによる送迎を行っていますが、会員の高齢化が進み、会の存続も困難な状況です。当地区の中には公共交通空白地域もあり、買い物や通院等が困難な高齢者が増えており、また、高等学校等への通学に

苦慮しているとの声も聞こえています。このことから、乗り合いタクシーや地域の力を利用したコミュニティ車両の充実など交通手段確保の取り組みを進める必要があります。

なお、当地区内においても集落により交通事情がかなり異なることから、小学校区単位など細やかな配慮と各地区の特性に合わせた取り組みが必要です。

4. 小学校の統廃合による教育の充実について

少子化により児童数が減少しています。子どもたちが学校生活において横のつながりや縦のつながりを感じながら社会性を身に付けるためには適正な児童数を有する学校規模に再編されていることが前提であり、そのための統廃合は必要であると思われま

す。しかしながら、小学校は地域コミュニティの中心であり、統廃合により地域からは賑わいが減ることも想定されることから、職場体験や地元産業体験など、地域に入り、地域を学ぶ機会を充実することにより、地域と学校との結びつきを強め、郷土を知り、郷土愛を育む教育を推進することが必要です。

5. 市職員体制の改善による住民サービスの向上について

市役所は市民に一番身近であるべきですが、支所を利用する住民からはサービスが停滞している、地域の声が届かない、役所が遠くなったなどの声が聞かれます。職員自身も市民の一人であることをしっかりと認識し、常に市民目線に立つとともに、人事交流や研修を通じて、「横断的な広い視野と柔軟な発想による施策の企画力」と「課題や問題をスムーズに解決できる能力」を高める取り組みが必要です。

また、行政サービスの更なる向上のため、本庁・支所間において適正な職員配置を確保し市民のニーズに的確に対応できる体制を構築することが必要です。

6. 「道の駅朝日」の拡充等による地域活性化について

進行のとまらない過疎化、少子高齢化による人口の減少や、主要産業である農林水産業の担い手不足などにより地域の「元気」が薄れています。地域に密着した農林水産業の振興を図るとともに、当地区の中心施設である「道の駅朝日」の拡充再開発を行い、同施設を軸としながら、「あさひまつり」を開催するなど、貴重な地域資源である自然環境、農林水産物やまちづくり協議会（地域住民）、地域おこし協力隊などの人材をフルに活かした地域振興の取り組みを推進する必要があります。

なお、地域審議会において審議された意見を別冊にまとめましたので併せて提言いたします。

日常生活の課題と解決に向けた方向性について

朝日地区

現状と課題	解決するための方向性
<p>①子育て</p> <p>1. 子育て世代の経済的負担が大きく、少子化の原因になっている</p> <p>2. 子どもを安心して預けられる場所が少なく、子育て世代の就業の妨げになっている。</p> <p>3. 子どもが安心して遊べる場所が少ない</p> <p>4. 子育て世代が集える場所がなく、子育てに関する情報や協力体制が不足し、親の子育て意識も低迷している。</p> <p>5. 結婚しても地域や家庭になじめず、転出するケースが多い。</p> <p>②買い物</p> <p>1. 集落内の店舗数が減少し、買い物に困っている人（特に高齢者）が増えている。</p> <p>2. 集落内店舗の減少により買い物場所はもとより、集いの場所が少なくなっている。</p> <p>③交通</p> <p>1. 高齢者や学生など運転をしない人の交通手段確保が困難になっている。</p> <p>2. 地区内においても集落によっては交通事情が大きく異なる。</p>	<p>①子育て</p> <p>1. (1) 子供医療費助成制度の拡充。 (2) 保育料の負担の軽減。 (3) 出産祝い金制度の導入。 (4) 児童手当の拡充。</p> <p>2. (1) 放課後子ども教室と学童保育所の充実。 (2) 孫親世代による子育て支援体制の構築。</p> <p>3. (1) 安全な遊具が設置され、安心して遊べる公園の整備（公園整備にあたっては、遊び場の提供のみならず、地域住民の憩いの場の提供や観光による地域振興に結び付けるため、「道の駅朝日」拡充にあわせ地域内外から魅力を感じられる施設整備を行う。）。</p> <p>4. (1) 親子が集える施設の整備。 (2) 子育て教室の充実。 (3) 子育て世代のネットワーク作りの支援。 (4) 子育て相談員（子育てダイヤル）の導入。</p> <p>5. (1) お嫁さんのネットワーク作りの支援。</p> <p>②買い物</p> <p>1. (1) 日用品を販売する移動販売事業者への支援。 (2) 店舗への送迎支援。 (3) 日用品の宅配サービス事業者の支援。 (4) 商業施設行きの公共交通の充実。</p> <p>2. (1) 地域コミュニティの協力による店舗存続の取り組みの支援。</p> <p>③交通</p> <p>1. (1) のりあいタクシーへの助成の拡充。 (2) 買い物や通学を目的とした乗合バスの充実。 (3) 乗合バス学割制度の延長。 (4) ライドシェア（営業車以外での有償相乗り）を行う事業者の支援（規制緩和後）。</p> <p>2. (1) きめ細やかな公共交通施策の推進。</p>

現状と課題	解決するための方向性
<p>④教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化により子どもが減少し、学校において社会性を育むための適正な児童数を確保できない。 2. 小学校の統廃合により、地域と小学校の結びつきが薄れ、また、地元産業に就業する子どもが減少した。 3. 教育費の経済的負担が大きい。 4. スマートフォン等の通信機器の子どもたちへの急速な普及によりいじめやネット犯罪等に巻き込まれる不安が拡大している。 5. 地域の教育レベルがと子どもの体力レベルが低迷している。 6. 子どもたちが生涯学習センターや図書館へ行くための交通手段が困難な状況であり、利用しづらい。 <p>⑤行政</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員数が少なくなったことや職員の企画力不足により、住民サービスが停滞している。 2. 縦割り行政を感じるとともに、支所としての機能が低下し、支所で完結できない事案が多い。 3. 地域の声が届きづらい。 4. 支所庁舎に使用していない空きスペースが多い。 5. 各種団体ごとに行う事業が多く、目的・内容が重複している。また、役員の重複も多く役員が疲弊している。 	<p>④教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (1) 小学校統廃合の推進 2. (1) 職場体験や地元産業体験などの地域を学ぶ教育機会の充実 3. (1) 奨学金制度の拡充 (2) 高等学校卒業までの就学費支援の導入 4. (1) 安心安全な通信機器の利用の推進（保護者はもとより、子ども本人や孫親世代も含め対象とした講演会の開催、パンフレット及び独自基準の作成等の啓発活動の展開） 5. (1) 少人数授業など、学力向上の取り組みの推進 (2) 幼少期からスポーツに触れる機会を増やすための指導員の確保、施設整備等スポーツ環境の拡充 6. (1) 生涯学習センターや図書館への送迎バスなど子どもたちが利用しやすいようにする取り組みの推進 <p>⑤行政</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (1) 職員の適正配置の推進 (2) 国県または民間との人事交流や、職員研修による職員のスキルアップの推進 2. (1) 本庁、支所間の効率的な事務分掌の整理 (2) 職員が横断的視野を広げるための情報共有化や研修の推進 (3) 住民にとって身近な事案は支所で完結できる体制の整備 3. (1) 地域の声を反映するための定期的なアンケートの実施 4. (1) 空きスペースを関係団体へ貸し出すなどの有効利用の推進 5. (1) 関係団体等による目的・内容が重複する事業の整理 (2) 地域活動に参画する人材を拡大するための講習会等の実施

現状と課題	解決するための方向性
<p>⑥その他</p> <p>1. 少子高齢化、過疎化により地域の盛り上がりが低迷している。</p> <p>2. 地域内での就業の場が少なく、人口減少が進んでいる。</p> <p>3. 主要産業である農林水産業が低迷している。</p> <p>4. 地域資源を有効利用した観光が低迷している。</p> <p>5. 空き家の増加により景観の悪化が進んでいる。</p> <p>6. 近所や親戚との付き合いに煩わしさを感じる若者が多い。</p> <p>7. 健康に関する意識の低迷を感じる。</p> <p>8. 畜産業者が発する悪臭公害が深刻化している。</p> <p>9. 高齢者の危険な自動車運転が多くなっている。</p>	<p>⑥その他</p> <p>1. (1)「道の駅朝日」の拡充により、同施設を軸として、自然環境や農林水産物、人材等の地域資源をフルに活用した地域活性化の推進。 (2)「あさひまつり」等の地域一体で取り組むイベントの実施。 (3)まちづくり推進のリーダーの育成や、地域まちづくり交付金の配分見直しによる更なる協働のまちづくりの推進。</p> <p>2. (1)企業誘致の推進。 (2)高齢者が協力し地域で働ける場所づくりの推進。</p> <p>3. (1)畑作物等への助成及び就農支援。 (2)市独自で国基準以下の支援をするなど中山間地農業の支援。 (3)休耕地の有効利用の促進。 (4)「岩船米」、「村上牛」などのブランド品目を統一し各ブランドの相乗効果を図る取り組み。 (5)地域おこし協力隊等による農林水産業支援。 (6)電気柵等による有害鳥獣対策の推進。 (7)市行造林の利用促進の取り組み。</p> <p>4. (1)「道の駅朝日」の拡充再開発による地域活性化。 (2)新たな企画の導入など、ぶどうスキー場や縄文の里の経営改善。 (3)県道鶴岡村上線の整備促進及び鳴海金山の整備による「朝日スーパーライン」を利用した観光の振興。</p> <p>5. (1)危険な空き家所有者等による管理適正化について理解浸透を図る取り組み。 (2)空き家バンクの利用推進。</p> <p>6. (1)まちづくり協議会等による世代間交流事業の促進。</p> <p>7. (1)地域で取り組む健康促進事業の推進。</p> <p>8. (1)畜産業者への迅速かつ適切な指導。</p> <p>9. (1)高齢者に対する運転講習会の推進。 (2)運転免許証自主返納についての理解浸透の取り組み。</p>